

5 歳児健康診査実施自治体見学に関する研究

研究分担者 山口 忍（茨城県立医療大学）

研究要旨

令和 7 年度に、茨城県常陸大宮市、静岡県静岡市の二市の五歳児健康診査の視察をおこなった。常陸大宮市では、事務職と専門職が仕事の役割を分担し協力し合って実施していた。また、お着替えを自分でする時間を設け生活状況が垣間見える機会もあった。静岡市では、簡単な性教育や生活への健康教育を取り入れるなどポピュレーションアプローチを進めていた。

両者とも比較的大きな市ではあったが一斉健診を取り入れていた。

A. 研究目的

五歳児健康診査への理解を深めるために、2 自治体への見学を行った。

B. 研究方法

（倫理面への配慮）

取材をすることについて各自治体保健センター担当課長の承諾を得た。

C. 研究結果

常陸大宮市実施状況

令和 7 年 4 月から開始

市内小児科医への説明を行い、医師からの協力が得られている。国庫補助金を活用している。健診が継続的にできるよう、医師、心理士保育士、教育委員会指導主事の調整を庁舎内で実施した。事務職と役割分担をし、保健師ができること、事務職ができることを明確にし、ともに事業を動かしている。また事前事後のカンファレンスに加え、

健診中にもカンファレンスを行うなど、きめ細かい情報交換をスタッフ間で実施していた。

富士市実施状況

富士市は人口約 24 万人（2025 年時点）を擁し、「中核市」である。令和 7 年度より集団健診による 5 歳児健診を開始した。

1 回 30 人～40 人を対象とし、月 3～4 回実施している。R7 年度から 5 歳児健診を実施することを目指し、前年より急ピッチで準備を進めた。健康教育で性教育や生活教育を取り入れ、ポピュレーションアプローチにも力を入れていた。

D. 考察

2 自治体とも比較的人口規模が大きい市ではあるが一斉健診を実施していた。従来おこなっていた巡回相談で、保育園とはつながりもあり健診にも協力的であった。両者とも、保育園教諭の不安感や保護者からの不安感が減少したという肌感覚を有していた。

E. 結論

2 自治体の見学により、地域ごとの方法があることが確認できた。専門職と事務職との協働や、性教育を健診の一部に取り入れることは他の自治体にも広げていきたいと考える。

F. 研究発表

1. 論文発表

・永光信一郎、小枝達也、小倉加恵子、前垣義弘、山口忍 他. 5 歳児健診の全国展開に向けた自治体の課題に関するアンケート. 日児誌 129:1157-64:2025.

2. 学会発表

山口忍、子吉知恵美、永光信一郎

5 歳児健康診査の全国展開に向けての課

題 第 72 回小児保健研究学会（金沢市）

・子吉知恵美、永光信一郎、山口忍, 5 歳児健康診査の実施の有無別による課題と実施のための方策, 第 72 回日本小児保健協会学術集会（金沢市）

・子吉知恵美・山口忍, 5 歳児健康診査に関わる職種と健診医の確保方法に関する実態把握

と実施のための方策, 第 14 回日本公衆衛生看護学会学術集会（金沢市）

・子吉知恵美・山口忍・瀧川真奈美, ポピュレーションアプローチとしての 5 歳児健康診査実施にむけた課題に対する方策, 第 14 回日本公衆衛生看護学会学術集会, ワークショ

ップ（金沢市）

・ 5 歳児健康診査の展開と備え

～明るい未来を創るために～秋田小児保健協会講演

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし